

令和 6 年度第 3 回西区区政会議 議事録

(澤田事業調整担当課長)

定刻になりましたので、ただいまから令和 6 年度第 3 回西区区政会議を始めさせていただきます。

私は進行を担当いたします西区役所事業調整担当課長の澤田です。よろしくお願いいたします。失礼して着座させていただきます。

それではまず、本日の出席状況でございます。急遽体調不良等でお休みされる方もいらっしゃいまして、現時点で 13 名出席いただいております。定数 25 人の 2 分の 1 以上は出席されていることから、本会は成立していることを申し上げます。

議事に入ります前にお願いがございます。区政会議は公開が原則となっております。議事録作成のため、録音をさせていただいております。また、記録用として、職員がカメラ撮影を行います。

今回も区政会議の運営にあたりまして、大阪公立大学の皆さんにご協力いただいております。各テーブルで後程のグループ討議のご意見を発表していただく他、前回に引き続き、学部生の地域活動に係る研究の一環として、皆様の話し合いを傍聴させていただきます。ご了承願います。

なお公立大学の皆さんは、昨年の夏に西区の 3 地域の盆踊り会場などで、地域活動に関するアンケート調査等を実施されています。後程調査結果をご報告いただきますので、ご期待ください。

それでは開会にあたりまして、三村区長からご挨拶申し上げます。

(三村区長)

皆さんこんばんは。区長の三村です。本日はお忙しい中、また夜分このようにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。本日の令和 6 年度第 3 回区政会議の開会にあたって、一言ご挨拶させていただきます。

まず恐縮ですが、大阪・関西万博の件からお話をさせていただければと思います。あと開催まで 73 日、残り 2 ヶ月半となりましたが、先日発表があったとおり、この万博で大阪をどんどんアピールしようということで、大阪ウィークという取り組みを実施します。これは春夏秋それぞれ 10 日から 2 週間ぐらいで行われるイベントですが、その夏シーズンに西区女性会の皆さんに盆踊りで参加いただいたり、堀江中学校の吹奏楽部の皆さんに演奏いただいたりということを予定しております。開催の際には是非皆さん足を運んでいただき、応援をいただければと思います。

あわせて来場促進の活動にも協力をいただけたら非常にありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日の区政会議ですが、令和6年度3回目の会議ということになります。前回の11月、皆様には様々ご議論をいただきました。地域の課題、そして予算等についてご議論いただいたものについて、ご意見を来年度の予算、運営方針に取り込んでおります。

例えば、全地域合同一斉での防災訓練をまたやって欲しい、不登校対策にもっと力を注いで欲しい、というご意見をいただいたかと思いますが、そういった点を来年度の方針に入れ込んでおります。その他、いただいたご意見を区役所内でしっかり議論した上で施策に取り込む、というような形にしております。

ご議論いただいたことが本当に施策のベースに反映している状況となっております。本日は皆様方にご議論いただいて、より区民に有益な方策になるようにしていきたいと思っておりますので、ぜひ活発にご議論いただいたうえ、様々に忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

それから先ほど司会からもありましたが、いつも本会議をお手伝いいただいている大阪公立大学の皆さんから、地域コミュニティに関する調査レポート結果についてご報告していただきます。その点も踏まえながらご意見をいただけたら非常にありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは簡単ですが私からの開会の言葉といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(澤田事業調整担当課長)

それでは本日の資料を確認させていただきます。机の上に置いてある資料をご確認いただけますでしょうか。

一番上に置いてありますが、会議次第です。続いて資料1としまして、大阪公立大学の調査報告資料。

資料2として、令和7年度の予算案の資料、資料3としまして、令和7年度運営方針案の資料、最後に資料4としまして、区政会議委員の皆様にも事前にいただいたご意見とその回答となっております。以上そろっておりますでしょうか。もし足りないものがあれば、お近くの職員に申しつけていただいたら、途中でもしお気づきの場合でも、仰っていただければ結構ですので、特段現時点大丈夫でしょうか。

それでは、続けさせていただきます。ここからは川野議長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(川野議長)

本日は前回ご意見をいただいた令和7年度の予算・運営方針について、区役所ではまとめた案を精査するとともにその具体的な執行についてご意見を頂戴する場となっております。夜間の会議でもあります。午後9時には終了したいと考えておりますので皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。それでは早速、お手元の次第に沿って進めて参ります。

まず、先ほどのお話にもありましたとおり、大阪公立大学の私の研究室で地域活動に関わる調査を夏に行いましたので、学生から研究結果をごく簡単でありますをご報告いたします。では、報告を始めてください。

(公立大学部生)

それでは、大阪公立大学文学部人間行動学科社会学コース調査報告について始めていきたいと思います。冒頭ですが、お配りした資料と修正を加えておりまして違う点がございませう。ご理解のほどよろしく願いいたします。

最初に、報告の構成について説明させていただきます。

3月に改めて報告会を行いますので、その際に詳細はお話しますが、本日は短い時間で簡単にご報告させていただきたいと思っております。本日の報告内容は主に3つです。

1つ目は、区政に関するアンケートの二次分析です。西区が区民に対して実施しているアンケート調査のデータをいただきまして、そちらを私たちの方で二次分析を行っております。

2つ目は、夏祭りアンケートの分析です。9月に西区内で実施されました3つの夏祭りでも実施されたアンケートの分析結果について発表いたします。

3つ目は、区民へのインタビューです。夏祭りの調査にご協力いただいた方の中から、後日、インタビューにご協力していただける方に、ズームでインタビューを実施いたしました。それでは報告を始めさせていただきます。

まず私から初めに、区政に関するアンケートの二次分析の結果についてご報告させていただきます。区政に関するアンケートは、大阪市各区が毎年実施しているアンケート調査になります。今回使用したデータは2022年1月23日から2月15日の間に実施され、614名から回答があったものです。この結果につきましてはホームページでも掲載されていますが、今回西区からデータをいただきまして、統計分析解析ソフトを用いてより詳しく分析を行いました。

アンケートの数ある項目の中でも今回報告いたしますのは、ご近所同士の共助、連帯実感度、助け合いについてです。具体的には、問19の「お住まいの地域では日頃からご近所同士で声かけ、見守り、助け合い支え合いが行われていると感じますか。」という質問への回答について分析を行いました。

また地域差を見るために、北部、南部、西部の3地域に分けて分析を行いました。地域の分類についてお手元の資料のとおりとなっております。先ほど申し上げました、「ご近所同士の共助・連帯実感度」をテーマに重回帰分析という統計的な手法を用いて分析した結果が以下の表となっております。

こちらはお手元の資料にはないのですが、北部と西部では年齢が若い人よりも、年齢の高い人の方が助けを感じている傾向があることがわかります。また北部では居住年数が長い人ほど、南部の場合は世帯人数が多い人ほど助けを感じている傾向にあります。また町会活動に関して、活動に参加している人ほど助けを感じている傾向が地区でも見られます。

西部に関しましては過去に町内会に参加していた人についても、助けを感じている傾向があることがわかりました。先ほど申し上げた内容を言語化したものがこちらになります。本日は1つの結果だけを紹介いたしましたがより詳細のものは3月の報告会にてお話させていただきます。

続きまして、8月末に実施したアンケートの分析結果について報告させていただきたいと思います。まず概要についてお伝えする前に皆様に1つお断りする点がございます。こちらの調査はあくまでイベントの参加者を対象としたものであるため、先ほどの区民アンケートとは異なりまして、住民全体を対象としたものではありません。そのため、統計的な代表性はなく、回答に偏りがあることを、ご了承くださいますようお願いいたします。調査の対象者としては、西区の3つの地域で開催されたイベント、夏祭りの参加者を対象としております。そして、地域の分け方としては、先ほどの組合アンケートのように、北部、南部、西部の3つのブロックに分割し、そこからそれぞれ1地点を抽出することで行いました。西部として九条南納涼盆踊り大会、南部として高台の納涼盆踊り大会、北部として江戸堀納涼盆踊り大会の3つのイベントを対象としました。開催日時と開催場所は資料記載のとおりとなっております。調査方法としては、Webで回答できるQRコードを記載した調査用紙を調査場所にて配布することと、用紙に記載された質問項目を尋ねるインタビューを実地で行うことにより調査を行いました。質問内容としましては、回答者の属性や世帯構成、活動地域への参加状況などを、質問しました。

こちらが結果です。3つのイベント会場で90名の方にご協力いただきました。内訳はWebで80名、アンケートで10名の方にお答えいただきました。こちらお手元の資料と内容が大幅に異なっており申し訳ございませんが、左のグラフが、参加者の年齢別グラフで、右のグラフが参加者の居住年数を表したグラフとなっております。

こちらから分かることとして、左のグラフをご覧いただくと、青の20歳以下と、赤の30代の方が約半数を占めているように、若い世代の方が多く参加していることがわかります。そして、右のグラフを見ていただくと、青と赤と緑の部分で、大変見にくくて申しわけないのですが、まとめますと約3割の方が、5年未満の短い居住年数であることがわかります。そして、こちらもお手元の資料にはないのですが参加者の世代構成についてです。こちら、黄緑と紫と水色の部分が子育て世帯で、約半数以上が子育て世帯の方が参加していることがわかります。

続きまして、こちらは一部ではありますが、現在お住まいの地域について、以下の事柄ほどの程度当てはまりますか、という内容の質問に対してです。左のグラフが子育て環境について、右のグラフが教育文化施設についての回答をあらわす円グラフとなっております。

あくまで今回のイベントに参加した方においてはありますが、子育て環境であったり、学校や教育施設については、肯定的な印象を持つ方が多いことがわかります。

続きまして町内会についてです。左のグラフが、町会の加入状況について、右のグラフが、加入していない方に関しての町会加入意欲、その結果を表したグラフとなっております。こ

ちらもあくまでこのイベント参加者においてですが、赤の加入していないが 52.3%となっており、加入率が低いことがわかります。そして加入意欲に関しても、加入者への 12.5%よりも加入するつもりはないの 35.4%の方が上回っていることがわかります。その一方でわからないという方も 50%いるということもわかりました。

最後に、こちら、先の質問で加入意欲がない、加入するつもりがないと答えた方に関して、その理由について尋ねた自由回答の結果となっております。こちらの回答から、大きく分けて 3 つの回答の形式に絞ることができました。

1 つ目は、仕事等で活動参加が難しいので、時間に余裕がなさそうなどの時間的な制約に関する回答。2 つ目が、町内会の活動を知らないため、デメリットがわからない、面倒くさそうなどの活動内容が不明であることに関する回答。そして 3 つ目が、密な関係が大変そう、といった関係性への懸念を表した回答となりました。

詳細な結果に関しましては 3 月の報告会にて報告させていただきたいと思います。

以上で夏祭りでの調査の分析概要結果についての報告を終わります。

(公立大学部生)

続きまして、区民へのインタビューについて報告させていただきます。

夏祭りの調査にご協力いただいた方の中から、後日インタビューにご協力いただける方にズームでインタビューを実施いたしました。インタビュー対象といたしましては、30 代女性居住年数が 4 年の A さん、50 代女性、居住年数 20 年の B さんの 2 名にインタビューさせていただきました。その他出身地や世帯構成、インタビュー実施日などは表にて表示させていただきます。

まず A さんのインタビュー内容について簡単にまとめさせていただきました。A さんは 4 年前に西区に転居されて、現在は岸和田市に勤務されています。地域の治安については夜間の安全性や静けさについて言及されていました。地域イベントに関しては、夏祭りに参加されていて、鞆公園でのイベント活動に関心があるようでした。

また町内会には参加しておらず、掲示板などで地域情報を得ているが、とおりで目に入る掲示板での情報提供が効果的だというふうにおっしゃっていました。

続いて、実際のインタビューについて、いくつか抜粋してご紹介させていただきます。まず、「地域のイベントについて何か要望などはありますか」という質問に対して、「私は美術や自然が好きなので、そういう対象年齢を絞らずに、おじいさん向けとか子ども向けとかではなしに、いろんな範囲の人が同じ目的を持って、ちょっとこの近くを探索して、また新しいものを見つけようとかそういうのがあれば面白いんじゃないかなと思ったりはします」、というふうに答えられていました。また、「もっとこうだったらというような要望やこの地域の課題は何か感じられますか」という質問に対しては、「一人暮らし向けにチェーン店とかはあるのですが、何か普通の定食屋さんとかがもっと増えたら、夜ご飯とか遅い時間で空いているお店みたいなどころが増えたらいいなと。個人的にはあと予約しなくても入

れる店があればいい」というふうにおっしゃっていました。

まとめさせていただくと、いろんな範囲の人が参加できるイベントがあればいいという意見、夜間でも 1 人で行けるご飯屋さんがあればいいなというふうにおっしゃられています。

続きまして、Bさんのインタビュー内容についてお話させていただきます。Bさんは西区に約 20 年間住まれていて地域イベントについては夏祭りに参加する程度で、町内会の活動などには参加はしていないそうです。マンションにお住まいですが、マンションの生活環境については若い世代の入居者が増加傾向にあって、住民同士の交流は挨拶程度というふうにおっしゃっていました。また地域の特徴としては若い世代や子育て世帯が多く、飲食店の入れ替わりが頻繁だというふうにおっしゃっていました。治安面では特に問題はなく、地域活動への参加については情報不足や参加のきっかけの少なさが課題というふうに挙げていました。こちらも Bさんのインタビューについて一部抜粋させていただきます。

「お住まいの地域で暮らしていて何かお困り事はありますか」という質問に対して、「特に困りごとはないのですが、最近近所のスーパーが閉まってしまい、ちょっと不便になったということはありません」、というふうに答えられていました。また「何かこの地域で問題があるとすればどんなところだと思いますか」という質問に対しては、「問題というか私自身もなんですが、地域のことは好きだが、地域の何かに参加しようっていうのはそれこそ夏祭りぐらいで、他のことなんか参加したりお手伝いとかしたいなと思ってもなかなかその辺が行きづらいというか、きっかけ、自分自身の飛び込む勇気がないかなと思います、いろいろ集まりとか地域のことをされていると思うのですが、もうちょっと「こんなんやってますよ」というのを知れたら参加できるのではと思っています」というふうにおっしゃられていました。

まとめると、イベントについての情報がさらに多く入手できれば、地域イベントに参加しやすいというふうにおっしゃられていました。

最後に全体を通じて地域の人にとっては子育てをしやすいとか、学校などの教育施設が充実しているというふうな地域の利便性についてのお話を伺うことができたのですが、例えば单身の方についてはみずから情報集めるよりは、目についた情報から地域のイベント等に参加することも多いという傾向が伺えたというふうに思っています。また町内会の加入についても夏祭りに参加した住民の傾向ではありますが、加入率が低いということがわかりました。これらの結果を踏まえても地域に関する情報の明確化に努めるべきだというふうに感じています。

以上で一部抜粋した部分の調査報告を終わります。具体的な詳細に関しては、後日発表の場にて報告させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(川野議長)

そうしましたらあまり時間もありませんが、質問などここで何かございましたらお受けし

たいと思います。何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。大丈夫ですかね。

そうしましたらまた詳しい報告についてはまた改めて機会を設けさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それでは大阪公立大学からの報告を終了させていただきたいと思っております。この後のグループ討議でも、この内容をご活用いただければ幸いです。

またより詳細な報告会を3月13日木曜日の夜に開催する予定となっております。また改めて西区役所経由でご案内させていただき予定ですが、区政会議委員の皆さんもぜひお越しいただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

では続きまして区役所からの説明に移らせていただきます。まずは本日の区政会議の議題に関わる説明です。令和7年度予算概要案について区役所から説明をお願いします。

(松谷総務課長)

総務課長の松谷でございます。よろしくお願いいたします。資料2の方をご覧ください。令和7年度の予算査定額につきまして説明させていただきます。今後、市会での審議を経て予算確定となるため、状況によりまして変更の可能性もございますのでよろしくお願いいたします。それでは資料の右の1をご覧ください。

資料の上段部分に、令和7年度区長自由経費としまして、4億3,320万円と記載しております。令和6年度予算から2,496万円増となっております。後程説明します運営方針に基づきまして、予算も、4つの経営課題ごとにまとめておりますので、その説明をさせていただきます。

資料の左上、の1つ目なのですが、「地域コミュニティの活性化」ということで、9,134万円についてですが、主なものにつきましては、①の区民まつり、二十歳の集いなどに1,097万円、②の地域活動の活性化のための地域活動協議会への補助金としまして2,602万円、⑤ですが令和7年度は万博の開催年度となりますので、万博の来場促進の関連事業といたしまして1,280万円となっております。

昨年度比で989万円の減となっておりますけれども、万博の関連事業が昨年度より1,000万円以上減となっておりますのでおおよそその分でございます。

次に左下の「安全・安心で、快適なまちづくり」の2,843万円についてですが、⑥の災害に強いまちづくりに向けた防災対策としまして、996万円、⑧の地域の見守り活動への支援としまして、1,343万円となっております。昨年度比で204万円の増となっておりますが、防災対策事業の126万円が増要素として含まれておりますので、その分でございます。

次に、右上の「安心して子育てや教育ができる環境づくり」の、2,613万円についてですが、⑨の不登校支援など、子ども支援事業と生徒が考える学校支援事業合わせて、879万円を新たに予算措置しております。

一方で、九条東小学校活用方針の調査内容の変更で588万円が減となりますので、差し引きまして、269万円がおおよその増となっております。

最後に、右下の「ニア・イズ・ベターを徹底するための区役所づくり」の、2億8,730万

円についてですが、⑩の広報紙の発行経費などに、1,788万円、⑫の区役所の管理運営費としまして住民情報窓口業務の委託料などに、1億7,880万円、区役所の庁舎維持管理費としまして8,062万円となっております。昨年度比で3,012万円の増となっておりますが、増要素としましては、広報業務として501万円、住民情報窓口業務の委託料など1,578万円、区庁舎の改修工事として831万円でございます。

今区役所は木質化で庁舎の美装を実施しております。2月8、9日で3階の庁舎を木質化し、来年度、残り4階5階を木質化ということで庁舎美装をしますのです、その際の改修工事経費としまして積んでいるということでございます。

次の資料2-2につきまして資料2-1に記載の事業一覧となっておりますのでまた後程ご覧ください。

続きまして資料2-3ですが、中段以下をちょっとご覧いただいでよろしいでしょうか。こちらは来年度、西区が重点的に取り組んでいきます5事業を記載しております。来年度も実施します西区の全地域合同防災訓練の関連経費の防災対策事業ですとか、先ほど申しました新規事業であります子ども支援事業と、生徒が考える学校活性化夢事業を掲載していますのでまたご一読ください。

最後に参考資料といたしまして、令和6年度と令和7年度の当初予算比較をつけておりますので、こちらは増要素と減要素をわかりやすく表記しておりますので、またご確認いただければというふうに思っております。簡単ですけども説明は以上でございますよろしくお願いたします。

(川野議長)

ただいまの説明について、ご質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。では次に令和7年度運営方針案について説明をお願いします。

(澤田事業調整担当課長)

では、令和7年度運営方針素案についてご説明いたします。

資料が、資料3-1、3-2、3-3とありまして、少し行ったり来たりしますご協力いただければと思います。

まず最初にお詫びする点がございます。事前に会議資料をお送りしておりましたが、急遽変更箇所が発生いたしました。申し訳ございません。その変更箇所から説明させていただきます。

資料3-3をご覧くださいませでしょうか。この資料3-3が変更した箇所を抜粋した一覧表となります。この資料3-3と合わせてちょっと隣に3-1の資料を置いていただけますでしょうか。どの部分を変えたのかといいますと、3-1の資料1ページ目の一番下の方ですね、見ていただきましたら、「アウトカム指標」という欄があるかと思えます。

ここが事業の効果測定をする目安ということで項目を書かせていただいているのですが、こ

の部分を今回は主に変更させていただきました。これをまとめたのが資料3-3になります。では資料3-3 ちょっとご覧いただけますでしょうか。

この資料3-3の左側に、書いてある欄ですね、もともとお送りしていた会議資料に書かれているアウトカム指標です。この右側が変更後のアウトカム指標となっております。

なぜ、変更したのかという経過についてご説明いたしますと、この左側に書かれているもともと書いていたアウトカム指標がですね、西区内の18歳以上の方2,000人を対象に、無作為、ランダムで選んでアンケートをお願いして、そのアンケート結果を運営方針上の事業の効果測定としてやってきたものです。

先ほどの、公立大学の学生さんが分析していただいたのも同じアンケートになります。この区内で無作為で選んだ方にアンケートをとるという方法は他の区でも行ってるんですが、今週の月曜日に大阪市役所内部におきまして、こういった手法でとったアンケートの結果を運営方針のアウトカム指標とするのは望ましくないという方針が発表されました。その理由ですが、実際にアンケートに協力していただける方の人数が少ない、西区で言いますと大体五、六百人前後になるんですけども、少ないにもかかわらずアンケート結果がまるで区民全体の意見であるかのような、誤解を与える恐れがあるという理由で、運営方針のアウトカム指標としてはふさわしくないというような話になっております。

大阪市全体でこういった方針の変更があり、可能であれば令和7年度の運営方針から変更するよという指示がありましたため、今回急遽、アウトカム指標の内容を区民アンケートを使わない内容に変えさせていただきました。

後程のグループ討議の中でもこの変更したアウトカム指標の中身についてまたご意見等ございましたらご議論いただければと思っております。変更箇所については以上になります。

続きまして時間の都合もありますので、運営方針の内容についてですが、本日は区政会議委員の皆様のご意見を反映した主な点を抜粋して説明させていただきます。資料3-2をご覧くださいませでしょうか。

この資料3-2は、西区役所のオリジナルの資料になっておりまして、運営方針の詳細を記載させていただいております。資料3-2の4ページ目を開けていただけますでしょうか。

4ページ目ですね、経営課題1の(2)「安全安心で快適なまちづくり」、ひし形のマークが幾つもあると思うのですが、最初の項目をご覧ください。西区全地域合同防災訓練の支援について記載しております。前回の第2回区政会議の中でも合同防災訓練を続けて欲しいというようなご要望ございました。それを反映させていただいた形でございます。

令和7年度は、自衛隊や消防、警察、医師会が参加する区役所災害対策本部と連携し、災害時避難所において、実際の災害を想定した一層実用的な訓練を予定しております。すいません、ページがちょっと飛ぶのですが、11ページをご覧ください。

経営課題3-1に「ニア・イズ・ベターを徹底するための区役所づくり」というところで、グレーの網掛けがあるかと思うのですが、区民の声が反映される区政の推進ということで、今年度第1回の区政会議で広報業務に関しまして、皆さんに集中的にご討議いただき

まして様々なご意見をいただきました。

区民の皆様と双方向でやりとりをすることを前提とした投稿企画や、地域活動をショート動画を通して気軽に知ってもらふ発信など、すでに可能な範囲で取り組みを始めている事業を含め、より伝わりやすいように、情報発信力の強化に取り組むことを記載させていただいております。

ただいまご紹介しました取り組み以外にも、昨年度から引き続き町会加入促進支援や大阪・関西万博来場意欲の向上に係る取り組み、地域の平時の見守りが災害時の助け合いにもつなげられるような取り組みなど、これまでの事業を改善した内容も盛り込んでおりますので、後程のグループ討議で一層効果的な事業が実施できますよう、ご意見いただければと考えております。簡単ではございますが、私の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

(川野議長)

ただいまの説明についてご質問などございますでしょうか。よろしいですか。

私としてはですね、このアウトカム指標の見直しというのは非常に残念だなというふうには、専門家としては思っております。アンケートに代えてSNSの閲覧回数が、アウトカムとしてより適切に反映しているかどうか、ということについては疑問を持ちました。

そうしましたら、報告事項の最後になりますが本日の区政会議実施に際して事前に委員から寄せられた意見について区役所から説明をお願いします。

(澤田事業調整担当課長)

それでは資料4をご覧くださいませでしょうか。

資料4は事前にいただきました区政会議委員の皆様のご意見と、それに対する区役所の回答ということで一覧にさせていただいております。先ほど予算の説明もございましたので、先ほどの説明と重ならない部分のみ、抜粋して読み上げさせていただきます。

一番左側に項番ということで、1、2、3、4と4項目あるのですが、2点目をご覧くださいませでしょうか。令和7年度予算案についてのご意見です。

「新規事業のつながるつなぐ子ども支援事業、外国につながる児童生徒支援事業、生徒が考える学校活性化夢事業について、とても興味深く拝見しました。具体的にはどんな事業が行われる予定なのか、会議で教えていただきたいです。代わりに気になったのが、不登校支援事業がマイナス47万円となっております。前回の会議で、不登校に関して支援を手厚くしていきたいということだったので、減額された理由を知りたいです。」というご意見です。

これにつきまして右側が区役所の回答です。「つながるつなぐ子ども支援事業は、区独自の不登校支援の新規事業であり、学校内居場所のモデル校を現在の1中学校から2中学校1小学校に拡大すること、及び家庭訪問による訪問支援を、福祉専門職を有する法人に業務委託します。そのため従前の不登校支援事業はマイナス47万円ですが、総額で前年度比528

万円増の 597 万円と大幅増となっております。資料で説明させていただきますと先ほどの資料 2-2、をご覧くださいませでしょうか。事業一覧、予算の内訳を書かせていただいています。この表の左端に 1 から 43 番まで番号が振られてありますが、その内 31 番目、不登校支援事業ということで、令和 6 年度が 69 万円だったのに、7 年度は 22 万円となってマイナス 47 万円減っているのではないのですかということだったのですけども。その下ですね、番号 33 番。つながる・つなぐ子ども支援事業ということですが、もともと令和 6 年度ではなかった新規事業で令和 7 年度に 575 万円でこちらも不登校支援の事業となっておりますので、この差し引きで大幅な事業費の増加にはなっています、というのが区役所の回答内容となっております。

もう一度、資料に戻らしていただいて先ほどの続きを読み上げさせていただきます。外国につながる児童生徒支援事業は、日本語が不十分な児童生徒、支援員が巡回訪問する新規予算を確保した事業です。生徒が考える学校活性化夢事業は、中学校生徒が必要な取り組みをみずから考えてまとめた改善方策に対して予算措置を行う新規事業であり、他者との協働力、リーダーシップ力、愛校心を育成し、将来に地区で活躍する担い手の養成につなげたいと考えています。

また実際にどんなアイデアを中学生が出すかというのは令和 7 年度に入ってからになりますので、区政会議でもどういった事業を具体的にやるかというところですね、報告させていただけたらと思います。

続きまして項番 4 番目をご覧ください。こちらも令和 7 年度運営方針素案の経営課題第 2-1(1)の内容についてになります。「2-1(1)について、一時保育事業を行う保育施設が西区内に少ないことを子育て中の保護者からの困りごと悩みとしてよく聞きますので、今後、西区として一時保育事業の実施施設が広がるような支援を行っていただきたいです。結果的にそれが虐待防止につながったり必要な支援につなぐきっかけになると思います。」というご意見をいただいております。これに関しまして右側が区役所の回答です。「一時保育事業につきましては、本市の大阪市子ども子育て支援計画に基づく一時預かり事業として、西区では 3 つの施設、別途 1 施設が、今現在休止中で実施しており、本事業の所管局であることも青少年局において、新たに 1 か所を追加募集中です。また上記事業で実施する施設以外に、西区内には認可外である企業主導型保育施設が実施する一時保育施設が 22 か所、令和 6 年 5 月時点であり、保護者からお問い合わせやご相談があった際にはこれら合計 25 施設について情報提供しております。さらに、本市では昨年 7 月から子ども誰でも通園制度の試行的事業も開始され、西区内では 1 施設が当該事業の対象施設となっております。ご意見のとおり一時保育についてのニーズは高いと認識しておりますので、今後も引き続き、関係部局と関係し、連携して取り組むとともに、周知広報にも努めてまいります。」資料 4 に関する説明は以上となります。

(川野議長)

ただいまの説明についてご質問などございますでしょうか。それでは続きまして討議を開

始したいのですが、議論の進め方について区役所から説明をお願いします。

(澤田事業調整担当課長)

今回のグループ討議については原則として以前決めさせていただきました 4 つのグループに分かれて、区政の各経営課題の予算と運営方針の策定に関して議論をしていただきます。議題としては予算と運営方針を別々に記載しておりますが、この 2 つはそれぞれ関連し合いますので、グループ討議、討議の中では 2 つ合わせて議論をお願いしたいと考えております。

また同じ部屋で一斉に議論を始めると、どうしても周囲の声が気にかかると思われるので、お手数ですが前回と同じく、子育て教育グループと広報・窓口・ICTグループは、別の会議室に移動していただき、グループ討議終了後にこちらにお戻りいただきます。区役所職員のご案内いたしますので、子育て教育グループと広報・窓口・ICTグループの皆様はご協力をお願いいたします。グループ討議は各テーブルの西区役所の職員が司会進行をさせていただきます。討議時間は 8 時 30 分までのおおよそ 40 分程度を予定しております。そのうち最後の 5 分間において西区役所の職員が討議の全体的なご意見内容等を確認させていただきます。その後、大阪公立大学の皆様から各テーブルでのご意見内容を発表していただきます。グループ討議の進行方法について、何か疑問点等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら早速ですがグループ討議の方にお入りください。

<グループ討議>

(川野議長)

皆さんお戻りでしょうか。そうしましたらグループでのご意見などをまとめてお聞かせいただきたいと思います。まずは、地域コミュニティグループから、お願いします。

(公立大学生：地域コミュニティグループ)

まず防災関連の話題についてですが、災害時の精神的なケアが課題として挙げられるのではないかという意見をいただきました。現状では地域住民が避難所設営などができるように指導するというのが防災訓練の目的ではありますが、今年度から医師会の参加もあって徐々に医療的なケアや精神的なケアにも着目できればいいなというふうな話題が出ていました。

そしてこれも防災についてですが、南海トラフなど大きな地震が今後想定されている中で、地震発生時に、今どういう初動対応をすればいいのか、こういった災害対策があるのか、というところの発信をもっとしていくべきではないかというご意見をいただきました。

またこれに関しては、出前講座などの啓発活動等を進めていくというふうに回答されてい

ました。

津波の被害の話から話題が広がりまして、九条地域に関しては避難できる高いような建物が少なくその対策をどうすればいいのかっていうところが 1 つ大きな課題点として挙げられていました。現状では公共の施設などはできる限り避難ビルとして指定されているとのことだったのですが、それ以外にももっと増やしていくために民間企業の建物であったり、そういったところにアプローチして、避難ビルを増やしていけるようにしたいというのが、区役所としての回答でした。

また女性コミュニティの防災意識の高まりがあるというふうなご指摘もありまして、その地域のママさんのコミュニティとかで「防災どうしたらいいのかな」ってなったときに、その地域の防災主体の地域町内会とかと、どういうふうに繋がっていけばいいのかっていうところがわからないことがある、というふうにご意見をいただきまして、こちらに関しては防災訓練の場での町内会活動、町内会加入の促進やホームページや SNS 等の様々なツールを用いて、発信に取り組んでいきたいというふうな議論がなされておりました。今回は本当に防災の話題ばかりになってしまったのですが、以上です。

ありがとうございます。

(川野議長)

西区役所の方から補足で説明いただけるところありますでしょうか。

(田野地域支援課長)

すいません地域支援課の田野でございます。今大体まとめていただいたのですが、もともと委員の中にこの 1 月に「東京ジャパン女性防災リーダーサミット」に参加された委員がおられまして、その中でやはり女性の災害、例えば避難者であったりとか、やはり女性の課題でありますとか、子育て中の方々が避難されたときの課題というのが、今現状としてそれを反映するのが大変難しい課題かなと。

特に心のケアといったところの課題とかがある中で、今後具体的に 6 月の防災訓練のところに、そういったところがもう少し反映、盛り込まれるか否かというようなご質問がございました。今回については地域の方で避難所の開設をしていただく、そういったところを主眼に置いて取り組みますので、なかなかそこまでは行きつかないんですけども、先ほどご発表いただきましたように、今回から医師会等々と連携もさせていただくということで、少し、これまでにない医療関係との連携も図っていきますので、今後そういった心のケアでありますとか、様々な観点というところも当然区役所としても念頭に置きながら、もう少し防災訓練についても、また様々な検討もさせていただきたいと思っているようなことをお話させていただきました。

あと、実際にもう南海トラフが来るということですので、そういったところで先ほどありました初動のところ、事例をお話いただいたのですが、何かブレーカーのところに玉をつ

けて、地震が来ればその玉が自動的に作動してブレーカーが落ちるといったこと、そういったちょっとしたところをですね、それぞれの家庭で情報があって、そういうな対策をしていれば、助かる命は助かるのではないか、というようなことで、そういった情報発信を区役所としてもしていただけたらいいのではないか、というようなお話がございました。

また、地域の方で様々な活動をいただいている中で、やはり実際に子育て中のお母さんとかがだんだん防災に興味を持っていただいている、そういった方々が町会とどう繋がって、どう聞いたらいいのかなあ、というようなお話もいただきました。当然、区役所にお問い合わせいただくのも 1 つではあるのですが、やはりイベントでありますとか、そういった町会の加入だけではなくいろんな相談ブースも設けていただいている地域もございまして、みずからのホームページあるいは SNS の展開もいただいている地域もございまして、そういったお問い合わせのツールも設けていただくようにもしております。また今後とも区役所としても各地域の方に、そういったイベントのときの相談ブースとかそういったところの設置協力も区役所の方からまた協議もさせていただいて、よりそうした、例えば防災を 1 つのツールとした町会加入の促進を図っていきたいという話もさせていただいたところでございます。

以上が地域コミュニティ・防災・防犯グループでございます。

(川野議長)

それでは次に福祉健康グループからお願いします。

(公立大学生：福祉健康グループ)

福祉健康グループで出た意見を発表させていただきます。

まず SNS の発信に関して、やはりお年寄りの方はスマホっていうよりは紙媒体の方が見る機会が多いのでそっちの方向で発信するべきなのではないか、という意見が出ました。またスマホ教室に関しては、今はイベント的に月 1 回というような開催をされているのですが、もっと日常的にスマホの相談のような形で通える機会があればもっとお年寄りの方がスマホを便利に使える 1 歩になるのではないか、という意見が出ました。

その他に、子育てや教育が福祉にも繋がってくる部分があるので、そこで西区のオリジナルティとして、イベントをもう少し活性化させるべきではないかという意見が出ました。

最後に町内会の加入の方に関しては、アプリでの加入がされている場所もあるということで、もっと手軽に加入できるのではないかという意見と、町内会に加入するメリットの伝え方に関して、やはり町内会に入っていると、災害時の助けになるというところが一番大きいと思うので、そこに対するメリットの伝え方を工夫していくべきという意見が出ました。

最後に町内会の会費に関してはやはり一律ではないところもあるので、そこも西区としてもう少し取り組むべきではないかという意見が出ました。以上です。

(川野議長)

補足、ございますでしょうか。

(合田保健主幹)

保健福祉課の合田から、ほぼ報告はしていただいたのですが追加をさせていただきます。

地域福祉としては予算的には今回大きく増額がなかったので、そこはやはり取り組みとしては、ますます深めていただきたいという話は出ました。が、先ほども学生の方がおっしゃったように、子育てとか教育とかの取り組みには福祉的な要素も含まれるので、全体としては福祉にも取り組んでいただいているのでは、とのご意見をいただきました。

アプリの町会加入に関しては先ほどもお話があったかと思います。アプリ加入で、千代崎の方も少しそういうアプリ加入の取り組みを試行的にやってきてるっていうことでご紹介もありました。ただ、やはり幾ら簡単に加入ができたとしても、本当にその方々がメリットを感じないとなかなかアプリを使うこともしてくれないので、やはり町会加入のメリットをしっかりと伝えていくっていうことが大事ということですよ。

災害時はもちろんですが、日常的に火災等も発生します。実際に地域で火災が発生したときに戸建ての場合、やはりそこに誰が住んでいたのかっていうことを消防の方からかなり地域の方にも問われたりしますが、やはりそこが把握できていており、すごく消防の方にもちゃんとお返事ができたりっていうふうな体験も今回お話いただいたんで、そういう辺りを少し追加っていうか確認をしていきながら、やはりメリットの方もきっちり伝えていくことが大事かなと思っています。

それと、地域で防災訓練をしていって、AEDの訓練なんかをやはり1回やったっていうことだけじゃなくて継続してすることで、少しそういう、皆さんとの繋がりを持っていけるのではないかっていうお話が出ていましたので若干だけ追加させていただきました。

(川野議長)

続いて子育て・教育グループからお願いします。

(公立大学生：子育て・教育グループ)

子育て・教育グループでは、SNSを使った子育て支援の情報発信と、不登校支援について話をしました。

まず1点目の情報発信について、詳しくお話しします。子育ての支援イベントは、現在SNS、主にインスタグラムを中心に発信しています。ですがその課題として、今はすでに実施したイベントを、終わった後に発信することが多くなっている事でしたり、またホームページで情報を探す際には、知りたい情報にたどり着くまで手間がかかることも、ご意見として挙げられました。そのためイベントの事前発信をタイムリーにしていくことでしたり、そこから参加者の方を増やすことでしたり、SNSの投稿では一目でわかりやすいような表現、

画像であったり、そういったものを利用した投稿が今後新たな工夫として必要なというご意見でした。また、SNSはフォローしている人しか見られないものでして、そこから、見てくれる方、フォロワーの方を増やすために、今既にされていることですが、つどいの広場においてはチラシを使った宣伝を今後も続けていくことが重要なというふうに考えられました。

次に不登校支援についてです。全体の中でもお話があったと思うのですが、不登校支援のモデル校を追加で設置検討しているという点と、不登校支援についての現状としては不登校の保護者の方に向けた講演会がフランクな形で行われているという現状です。

不登校の現状について、西区では不登校の割合が高いということを踏まえて、不登校に悩む子どもたちの理解を深める手段として、NHKで行われている不登校に悩む子どもたちや乗り越えられた子どもたちの現状が放送されている番組やNPO法人、多様な学びプロジェクトというのがご意見として挙げられていました。

具体的には、不登校の実態を把握することを目的として活動が行われていて、その支援によって不登校を乗り越えることができた子が多くいるという現状が挙げられています。具体的な不登校の支援、予算的支援が様々な自治体で導入されており先例がありますので、それを参考にできるのではないかという意見が出ました。

また、不登校の子どもに対するアプローチの仕方に関して意見が多く出ました。「学びプロジェクト」というNHKの番組の中でも、不登校で悩む子どもにとって「学校に行け」って言われるのが一番嫌だったという、子どもに対して学校に行って欲しいという大人からの圧力であったりとかあまり良くないのではないかっていう意見であったり、不登校で悩む子どもに向けて大人は、「長い人生で見たわずか3年間だよ」というような視野を広げて、精神的安心を与えられることであったりとか、中学生の期間などは学校がすべてというふうに感じてしまいがちですが、別の環境で輝けるっていうことを伝えていくことも大切だというふうに意見が出ています。

また他にも、「do」することによって認められる環境はいっぱい設けられていますが、「be」だけ、存在するだけで認められていると感じられるような居場所づくりをするべきだという意見も出ました。学生からも、学校以外の場所で居場所づくりが必要なのではないかという意見も出させていただきました。以上です。

(川野議長)

補足はありますでしょうか。

(玉置教育担当課長)

教育担当課長玉置です。全体的にわかりやすく、2点すごくはっきりと報告をいただいたかなと思っていますので、若干それぞれ1点ずつぐらい補足をしたいと思っています。

まずインスタ等を中心にSNSで皆さんへ周知するという観点ですが、実はLINEやイ

インスタグラムを中心によく普及していて、学生も使っていますが、中でも「ストーリーズ」を活用していると聞いております。そのストーリーズというのは24時間で投稿した内容が消えてしまうのですが、すごく簡単に投稿ができる、簡単に見ることができるというふうな便利さがあるということです。若い方に見てもらえるような媒体というのがもっともっとあればという意見でした。私どもの回答としてなかなか区役所の職員がそこまでSNSの操作とかに、みんながみんな堪能でないようなところがありますことを正直に申し上げましてですね、その辺りも我々自身が課題なのかなというふうに思ったところでございます。

2点目の不登校に関するお話のところですが、ご報告いただいたようないろんなご意見、ご質問がありましたので、区役所からはまず学校へ行くことありきで新しい新規事業を考えているわけではなく、多様な選択肢を尊重していきますというお答えをしております。学校の中に居場所を作るというのは、学習をメインでということではなく、福祉専門職でカウンセリングマインドを持った者が、まず対話をしていく、そういったことを重視した居場所づくりをしていることを考えております、というふうに回答したところでございます。以上です。

(川野議長)

最後に広報・窓口・ICTグループからお願いします。

(公立大学生：広報・窓口・ICTグループ)

このグループで基本的に情報伝達について話し合いました。例えばこの経営課題のアウトカム指標であるSNSの閲覧回数の3000回であるというのは、やり方によってはすぐできてしまうもので、それで本当に西区住民に情報が届いていることになるのかという疑問、不安が残るという意見が出ました。数を稼ぐのが本質ではなくて、きちんと西区の人に届けるその事業効果を確かめるにはちょっと不安が残るのではという話です。例えばフェイスブックではプロモーション料、いわゆる広告料を払ったりすると簡単に閲覧回数を増やして目標を達成できてしまう話が出ました。

それならば、どのように西区の人たちにきちんと情報を伝達していけるかは、LINEを活用すればいいのでは、という話が出ました。例えば、インスタグラムのハッシュタグなどで、その個人情報、例えば「西区」というタグが付いているのを「いいね」するとすると、この人が西区に住んでいるのでは、っていうように個人情報がわかってしまう危険性が出て、あんまり触れられないのでは、ということで、個人情報の特定を嫌うような人には、例えば西区のLINEを活用して、写真だとかURLっていうのを送信して見てもらうっていうようなことが1つあるんでは、という話が出ました。

やはりLINEに誘導していくのがいいのでは、ということで、各種のイベント等でLINE、西区のLINEっていうのをちゃんと広報して、そっちに誘導していくっていうのが必要になるのでは、という意見が出ました。以上です。

(川野議長)

補足等ございますでしょうか。

(澤田事業調整担当課長)

事業調整担当の澤田でございます。

先ほど概要をまとめていただいたところですが、今回グループ討議で我々も知らなかった知識を教えていただくことができ、勉強になりました。特に若い世代の方は SNS を通じて個人情報の特定につながるような状態を大変嫌うこと。Instagram はじめ SNS を通じて「いいね」とかフォローすると、「その記事内容に関わりのある人だ、仕組み、リスクに関係のある人だ」というのが知れてしまう、そういうことを避けるため LINE を情報プラットフォームとして活用すると。LINE に今すでに公開しているクオリティの高い動画等の URL を貼りつけて見てもらったら、広い層の区民に情報が行き渡るんじゃないかというので、アドバイスをいただきました。

他にもいろいろ意見をいただいたので、区役所として今後活用できるところを考えていきたいなと思いました。以上でございます。

(川野議長)

たくさんご意見をいただきました。

ただいま各グループからの発表あるいはまた本日の会議を通じてご意見、ご質問等がありましたら、お伺いしたいと思います。

特にございませんでしょうか。それではグループ討議を中心として今日の議論整理を私の方でさせていただきます。

全体として今お話を伺った感じで言うと、やはり SNS をどう使うのかということが各グループで非常に大きな話題になっていたことがよくわかりました。それに関しても今の最後の LINE に統一した方がいいのではないかという意見というのはすごく興味深いなと思いました。新しいメディアがどんどん登場してきている状態なので、私もそうなんですけど、だんだんもうついていけないっていうか何を使っているのかよくわからない、何がいいのかよくわからない、みたいな感じになってきています。そういう意味でいうと LINE をプラットフォームとしていくというのは非常に面白いというか、非常に現実的なのかなとも思いました。

それからまず地域コミュニティに関してですが、やはり 1 つは防災ですね。防災も他のグループも含めて話題になっていたことじゃないかなと思いました。防災に関しても、ハードという面だけではなくて要するにメンタルケアというものをどういうふうにしてカバーしていくのかということについても、実際に災害とかが起こった後にどうしていくのかという部分ではよく考えておかないといけない部分であろうと思います。それから実際にハードの

面でもそうですが、初動の対応に関しても情報発信をどうすべきか、というものがありましたし、避難所をどう確保するのかということに関しても民間と連携していくことの重要性が議論されました。

それからやはり、地域の防災の主体ですね。それもやはり女性、あるいはその子育て中の方たちがやはり一番不安に思われるところだと思います。私たちが本日最初にアンケートのところでお話したインタビューについて、単身の女性の方も結構いらっしゃる、増えている状況ですので、そうした方たちにもどうやって情報を発信していくのか、それから災害が起こったときにそのような方たちが孤立していないか、情報が届かないと困ったことになると思いますので、そうした意味ではやはり、先ほどありました SNS も大事かと思ひますし、どういふふうにして町会に入っただけなのか、入りやすい手段ということも大事だといふふうにおもひました。

福祉に関しても SNS が非常に話題になっていたようですが、高齢者についても同じように情報インフラとしてスマホが必要ですので、そういった意味でもどうやって使っていくのかということの相談会も日常的にやった方がいいのは本当にそうだと思います。そういう場を設けて、日常的に相談できる場所、手伝ってあげるところが必要なのかなとおもひました。

他にも福祉関係でいうと、イベントをもうちょっと活性化させて、という意見がありました。私たちの調査でも、町会には入ってはいないけれど、近くのイベントには行く、であるとか夏祭りには行くといった人たちもたくさんいますので、そういう意味では西区は非常にたくさんイベントをやっておりますし、イベントをきっかけに町会に入っただけ、あるいは町会へもアプリで加入する、という方法っていうことですね。

あと話になったのは、人口が増えて税金も上がっているのだから、もっと町会に資金を回すように、というような議論も耳にしました。

それから子育てに関しても、やはりこちらも SNS ということがやはり重要だと。ただ、イベントについて私はちょっと気になったのは、イベントやる前の告知っていうよりもイベント終わった後に発信されていることが多い、という話です。事前にこういうイベントがありますっていう告知、宣伝というのは非常に大事だと思います。

それから不登校ですね。これもやはり今までずっと問題になっていました。西区でも非常に不登校の割合が高いということですが、このアプローチもやはり何か今日はどちらかというところインフラ的なハードな面というよりもソフト面を非常に大事にしようという議論が全体としてあったのかな、とおもひます。そういった意味では、不登校に対する支援も、学校の中での教育に対する支援というだけではなくて、「承認」という言葉がありますけど、そういう「認めてあげる」っていうことの大事さ、あるいはカウンセリング、学校以外の場、といったところで、その子たちの存在を認めてあげるようなケアをしてあげる場がすごく大事だと言われていました。行政ができることは多分限られているとは思ひますが、そのような場を提供してあげることは可能なことかな、とおもひました。

最後に ICT に関してですが、閲覧回数について、それでちゃんと届いていることを示せ

るのかどうか、というのはいろいろ問題があると思いますので、先ほど最初にありましたけれどもLINEですね。それからいろいろSNSを使うっていう意味でも、やはり個人情報の特定を嫌うとか、それは避けたいという意味でも、やはりプラットフォームとしてLINEの活用というのはすごく重要な指摘だったのかなと思いました。

全体として、先ほど言いましたけども、やはりSNSをどのように活用していくのか、それから防災の問題も含めて町会に入っていただくためにも、防災に対する不安を感じている人たちはかなり幅広くいらっしゃいますので、その人たちにどのようにアプローチしていくのかということは、やはり重要な課題かと思いました。特に今回はSNSやソフト面でその支援をどうするかが、全体的なグループとして課題になったという気がしております。

区役所ではこうした議論を踏まえ、より改善に取り組んでいただければというふうに思います。まだご意見がおありかとは思いますが、そろそろ時間もございまして議事報告についてはこれで終了をしたいと思います。ありがとうございました。

(澤田事業調整担当課長)

川野議長、議事進行ありがとうございました。

本日は活発な意見交換と議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。まだまだご意見を伺って参りたいところですが、そろそろお時間が参ってございます。それでは最後に三村区長からご挨拶申し上げます。

(三村区長)

区長の三村です。今日も長時間にわたり活発なご議論本当にありがとうございました。

最後に、議論に出たテーマについて、何点か私から補足の説明ですとか、足らなかったところを付け加えたり、ということでお話をさせてもらいたいと思います。

私も4つのグループ回っておりまして、共通の切り口は、先ほど川野先生からもありましたが、やはりSNSそれから防災、この2つだったかと思います。

まずSNSについてですが、これは本当に非常に大事だし、一方で課題も極めて強く感じているところです。行政としては行政サービスの提供、これはうちの場合は1階、3階を中心に提供しているのと、あと行政サービスの情報、いろんな情報をお伝えする、これが2つの大きな我々のありようというか、やるべきことだと思っていまして、その情報を届けるにあたってこのSNSというのは、極めて有効性が高いというふうに認識しています。

「区役所職員はなかなか苦手なんです」という話もありましたが、ここちょっと私の思いとしては、「こんなこと言っている場合じゃない!」という思いでおります。議論の中では出てきませんでしたが、来年度にはSNSの発信をいかにうまくするか、とか情報発信するための知識、ノウハウをいかに習得するか、ということでもコンサルに入ってもらってSNSの発信を強化しようと考えています。

写真の撮り方だとか基準の作り方とか、発信の仕方、ツールの使い方とかですね、こうい

ったものをやろうと思って今プロポーザルもかけて、10数社の応募が来てくれています。

来年度はそれを活用してSNSの発信量、それから内容の改善を図っていきたいと思っています。これも一朝一夕に結果が出るわけではないので、ちょっと長い目で見ていただいたり、またいろんなアドバイスをいただけたら非常にありがたいなあというふうに思っております。

それから災害、防災についても重要なテーマだというふうに考えておまして、また今年も6月8日に全地域合同での防災訓練を行います。これも皆さん、ぜひご参加いただきたいと思います。今回は各地から情報を集めて、それが災害総合対策本部に集約されて、総合対策本部では限られた資源、物資もそうですし、医療資源もそうだし、消防の動き等もそうですが、どこに優先順位をつけてどういう動き方をするかと、こういうシミュレーションを行います。

ですので、実際災害が起こったときに、すべての人を同じようにというのはなかなか現実的には難しいので、正しい情報が迅速・正確に入ってきて、対策本部では効果的・効率的に手が打てるようになる、こういうことを行おうと考えております。

体験型の訓練では減災への取り組みをぜひやっていきたいと思っています。西区はマンションが多いですが、マンションはどうしても孤立化してしまうと、家でけがした人はなかなか見つけられないことになるので、減災、全くの災害を避けるということはこれは不可能だと思うのですが、少しでも減災につながるような、そんな啓発をやっていきたいと思っています。

これは福祉、保健の方とも繋がりますが、医師会と話をしておまして、医師会の先生方も実際この西区に住んでいる方ってほとんどいない、1割ぐらいしかいらっしゃらない状況です。災害が起こった場合、本当に西区11万人のうち、けが人がどれぐらい出るかわかりませんが、医者に診てもらえるようその手を尽くすのですが、全てに手が届くかはなかなか難しいので、けが人が出ないようにと、各自のご家庭での備えを是非お願いしたいと思っています。そういったことにつながるような防災訓練にしていきたいと思っています。

それから不登校についてです。不登校はもうこれ私も何回もこの場で申し上げているので、皆さんも認識は一緒だと思うのですが、やはり大きな課題です。子どもの居場所を作るというのは当然今、玉置課長からもありましたが、1つの中学校から3校(2中学校、1小学校)に広げようとしているのですが、大事なのは保護者の方へどうアプローチするかということだと思っています。

今までも不登校でお悩みの保護者の方に集まっていたいろいろな話をお伺いする機会を作っているのですが、やはり悩みは深いです。いろんなアドバイスが欲しいし、繋がりが欲しいというお話もあるので、従来は集まっていたく形にしていたのですが、来年度からは個別に訪問してお話を伺いすると、こういうような体制を加えました。これも進める中でまたいろいろ改善していきたいというふうには思っております。

前も1回お話ししたかと思いますが、教育の分野においてはやはり困っているご家庭とか、

苦しんでいる子どもに手を伸ばすことは当然やらないといけない、行政としてセーフティネットでもあるのですが、私がずっと着任以来言っているのは、西区ではリーダー教育を取り入れたいと。西区出身の世界を引っ張るような、そんな子どもを育てていきたいという思いがずっとありますね。それを一部実現化させるのが「生徒が考える学校活性化夢事業」で、子どもたちが自発的にある制限のもとで、何がしたいか、これをするとどうなるかというのを、自分らの責任で自発的に考えて実施していくという事業になっています。

こういったことを通して、社会の中でどういうふうに自分の存在感を示すか、考えたことがどういう結果に繋がっていくかとか、やはりそういう体験に繋がったらいいなと思っているところです。といったことが来年度考えおきます予算、事業の中の柱になります。

あと、地域コミュニティも当然引き続きやっていこうというふうには思っています。既に取り組みを始めているのですが、先ほど町会のメリット、という話があったのですが、町会に入るメリット、これはこれで当然大切なのですが、そのメリットで話しているとなかなか入ってくれる人が少ないのかなど。実際メリット・デメリットなんて計算しようもないので、ちょっと別の観点で町会の活動というのが大事だとか、やってみたいと思うてもらえるようにならないかなということ、既にSNSに動画を上げているのですが「サードプレイス」という概念があります。少し皆さんにお伝えしたいなと思います。

ボランティアは無償の活動ですが、その活動をすると自分の生きがいだとか人から感謝されたりだとか、充実感を味わえますよと。こういうようなことを1回体験してみませんかとか、こういう問いかけをずっとしていきたいな、と思っております。実際今日、この区政会議に参加していただいている委員の皆様も、おそらくそうなんじゃないかと思うんですね。こんなに夜遅くに来て、何か小難しい話をしてというのも、おそらく自分が話したことが区政、行政の人たちに伝わって、それが施策に繋がって、区民の皆さんとか周りの人たちに何かちょっとでもいい効果が生まれたなあと、そういうような思いでおそらく、こちらに参加していただいていると思うんですね。

そういった思いとか、充実感だとか体験しないとなかなかわからないと思うので、こういう体験をしてみませんかとか、というようなことを是非伝えていって、参加してもらおう、とこういうような働きかけをしていきたいと思っています。「これをやってみたい」という方が出ると、町会の方々も「そうかそうか、やってみよう」みたいなね。こういうような大きな心でぜひ受け入れて欲しいなというふうには思っているところです。

その他にも、いろんな思いを込めてこの予算、運営方針を作っていますので、また何かありましたら個別に声かけていただいたら、幾らでもお話をさせていただきたいと思っております。今日は本当に長い時間をありがとうございました。私からの今日の会議についての皆さんへのお礼の言葉にさせていただきます。

(澤田事業調整担当課長)

長時間にわたりましてご意見いただきましてありがとうございます。本日の会議内容につ

きましては、西区役所のホームページで後日公開させていただきますのでご了解願います。

次回の区政会議の日程は6月ごろを考えてございます。なるべく早い時期にメール等でお知らせいたしますのでまたご協力よろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和6年度第3回西区区政会議を終了いたします。ありがとうございました。